

旧右近倉庫

1894年に建てられた右近倉庫は小樽運河の北端に位置しています。北浜地区でよく見られる切り妻屋根を持つ大きな倉庫です。右近家は福井県河野出身の北前船（商品を売買しながら大阪と北海道を結んでいた商船）の船主です。倉庫正面には右近の店印である2本の箸を模した平行な黒い線が記されています。この印は右近家の店先や店員の制服にも使われていました。

右近家は1890年代に小樽で基盤を確立し、倉庫業や水産業を営んでいました。右近家は日本有数の海運会社の1つで、海上保険サービスの共同創始者でもありました。

倉庫は元々隣の広海倉庫と同様に越屋根でした。しかし1924年、手宮駅で積み荷のダイナマイトが爆発し、右近倉庫など近隣の建物が被害を受けました。屋根は再建されましたが、その切り取られた形状が事故を思い起こさせます。